

漢法苞徳塾資料	No. 302
区分	診断論・脈診
タイトル	六部定位脈法略述
著者	八木素萌
作成日	1991.05.19

経絡治療の脈診と「証」建て

- 【1】脈診部は「脈口」と呼ばれる前腕橈骨動脈の拍動部である。右図のように臓腑経絡が配当されているが、これは在来『難経』18難に本づいたものと説明されて来ているが、この説明は正確では無い。

左		右	
小腸・心	寸	肺・大腸	
胆・肝	関	脾・胃	
膀胱・腎	尺	心包三焦	

診脈部位図

- 【2】脈診部を「寸」「関」「尺」の三部に区分し、左右で六部とし、「浮」「中」「沈」に脈を按じて診る。『六部定位脈診法』とか『六部定位の三部九候診脈法』と言われる所以である。また左右の三部の脈を「浮と沈」・「虚と実」・「遅と数」の脈状を比較対照して判定するので『六部定位比較脈診法』とも呼ばれている。
- 【3】「中脈」では「胃の気」を候い、これより沈めて「沈脈」（陰の脈であるから「陰脈」という）を診、中より浮かべて「浮脈」（浮は陽であるから陽の脈を診ているので「陽脈」という）を診る。
- 【4】先ず脈の左右差を診る、左>右ならば肺虚または脾虚、左<右なら肝虚、左尺と右寸の虚では腎虚とする。
- 【5】「陰虚」の脈とは、浮いて弱い脈で、浮脈（陽脈）よりも沈脈（陰脈）が弱い脈の事である。
- 【6】「陽実」の脈とは、「浮」で「実」の脈で、三部左右全ての「陽脈」が「陰脈」よりも力強く、かつ数脈を呈する脈の事である。その中でも、最も「陰の部」の「虚」が著しい部位の「陽の部」を主証と見なすのである、肺虚陽実・腎虚陽実・肝虚陽実・脾虚陽実の四種類である。
- 【7】「陰実」の脈とは、「沈脈」であって力強く、全ての「陰脈」が「陽脈」よりも大（実）の脈であって、その中でも、最も「陽の部」の虚している部を「陰」の主証と見なすのである。肝実（肺虚）・脾実（肝虚）・腎虚火旺の三証である。腎と肺は虚し易く実することは少ないとされており、脾虚である時には腎は実することが少なく脾腎の部の虚となる、と把握されて来た。
- 【8】「陽虚」の脈とは、沈んで虚の脈であり、陽も陰も虚脈となっている脈である。
- 【9】その他、寸（胸以上）、関（膈以下臍まで）、尺（臍以下）の疾患の配当し、脈の所在する側に病があるとする説が『難経』に記述されている。